

**宮私幼PTAだより**

第89号

発行者 連合会  
行先 PTA美 委員 会  
宮私幼 編集 集委 会  
(会)長 報 員  
事務局 青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F  
仙台市 電話 (022) 263-7040番



### 急激な少子化に 対応した政策を

会長 渥美 巖

弥生三月、幼稚園を卒園される園児並びにご父兄の皆様には、ご卒園おめでとうございます。  
人口減少が社会的な問題になっております。平成二十七年十月に行われた国勢調査によると、宮城県の前回は二二三万三九九九人で、五年前の前回調査より一万四二六六人減少、平成十二年のピーク時から三万二四二二人減少し続けています。  
特に減少率の大きいのが気仙沼・本吉地方、石巻地方、栗原地方で、沿岸部・内陸部での減少が目立っております。一方、仙台都市圏は、一五二万八五〇八人（構成比六五％）で前回より三万八四一〇人増加しており、宮城県の人口は仙台一極集中が進んでいます。  
出生率（一人の女性が一生に生む子どもの数）が二・〇八と落ちています。全国一・四五に対し、宮城県は一・三六で全国四三位にあり、国や県あげての「こども

育て政策」が必要と考えます。  
平成二十八年度学校基本調査による園児数は、公立が四五五八八人、私立二万六七九二人（構成比八五％）合計三万二三五〇人となっておりますが、二十年前と比較すると七八九二人、二十％の減少であります。参考までに、国調の〇歳～五歳人口は二十年前と比較すると二万九四一九人（二二％）減少しています。  
このように各種統計上からも本県の少子化が急激に進行していることが裏付けされており、人口減少で一番最初に影響が出る私立幼稚園に対し、国・県が前向きに財政支援すべきと思います。  
「子ども達にとって最善の教育保育環境の実現」を目指している私達PTA連合会は、一月十一日宮私幼連合会と共に、村井知事に対し、「私立幼稚園に対する県補助金の引き上げ」を要望致しました。県の新年度予算額に反映されることを期待しています。



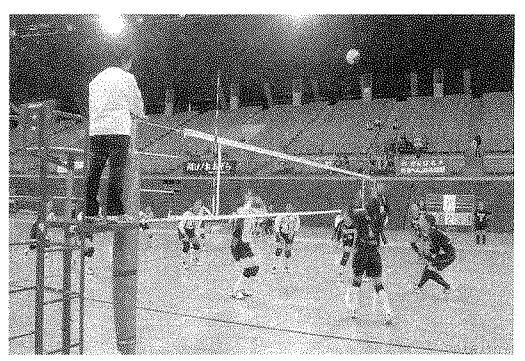
### 第四十一回 親善バレーボール大会について



もみじが丘幼稚園（T）  
体育部副部長 小山 佳子

「もう一本!」「そーれ!」  
早朝より元気のいい、活気溢れる声が、広い体育館に響き渡り、六コートそれぞれで試合が始まりました。  
平成二十八年十月十八日（火）  
ここ、セキスイハイムスーパリアリーナに於いて宮私幼PTA連合会活動、一大イベントである親善バレーボール大会が開催されました。今年で四十一回を迎えるこの大会は県内各地から六十一チームの参加となり盛大な大会となりました。  
各幼稚園のバレーボールチーム

は、カラフルなユニフォームを汗びっしょりにし、活き活きとした選手の姿に圧倒されます。表情も真剣、機敏な動き。これがいつもの優しい穏やかなお母さんの姿かと思うとちよつと驚く場面も。  
白球を追いかけ、チームの仲間と力を合わせ戦うゲームは接戦に接戦を重ね最終セットまで勝利がわからないほど白熱していました。勝利を喜び合い、一点に悔し涙を流す姿は「格好いい!」の一言。この姿を子ども達にも是非見せたいと感じました。  
昨今、なかなか人数が集まらずチーム編成も苦労されている幼稚園もあると聞きますが、仕事も持ち、家庭を守り、子育てをしてお母さんだからこそできることもたくさんあるはず。今回のバレーボールの試合を通して得られた達成感は、やはり経験で得られた自信そのものではないでしょうか。勝敗に関わらず一生懸命プレーするお母さんのその姿こそ子ども達へのメッセージなのかもしれません。普段、子ども達に「がんばれ!」と言っているお母さん。お母さんだって「頑張っている!」という熱いメッセージ。



子育ては、大変だけれど、あつという間。忙しい中にも時間を見つけて仲間とともに頑張り楽しむそんな姿を目の当たりにした応援側の私達も元気を頂きました。  
最後になりましたが、今大会の開催にあたりご尽力いただきました宮私幼連合会、並びに運営にご協力賜りました審判団、役員の皆様方に心より感謝申し上げます。

**第四十一回親善バレーボール大会  
入賞チーム**

フロック	優勝チーム	準優勝チーム
A	すがわら	なとり・同第二
B	やまびこ	南光シオン
C	第二向陽台	岩沼西こぼと
D	くり	みやぎ
E	めるへの森	和光
F	もみじが丘	泉の杜

# 地区活動報告

平成二十八年年度  
石巻地区教育振興大会  
石巻地区研修大会  
いま子どもたちがあぶない

ひばり幼稚園 (P)  
鈴木裕三



平成二十八年十月六日に東松島市コミュニティセンタ

において、石巻地区教育振興大会ならびに、研修大会が開催されました。開催までには、各園の園長先生をはじめ、PTA 役員の皆さんと何日にも渡り打ち合わせ等の会議を開き、当日会場準備からスムーズに進み、無事来賓の皆様、保護者の皆様を迎えることができました。そして、多くの方々の協力、ご支援を頂き開催できました。

第一部の振興大会では、はじめに幼稚園母の会の歌「愛の花輪」の合唱から振興大会がスタートしました。振興大会宣言を読み上げ、

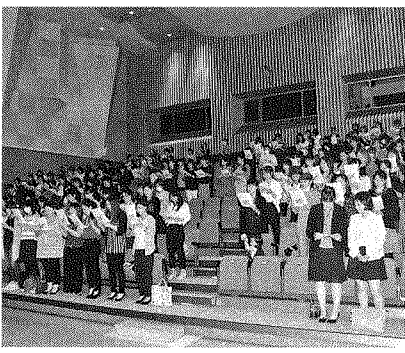


子ども達の健やかな成長、発達安全のため、親、地域、幼稚園の絆を高め、安心して子育てができる環境が必要であり、三つのことを宣言致しました。一、幼児の自立への歩みを進め、適切な環境での体験と、人のかかわりの中で「生きる力」の基礎を育み、また、親の「学び」「子育て」を支える環境づくりに努めます。二、幼児の就園に伴う保護者の経済的負担を軽減するために、県費かさ上げによる運営費助成増額、並びに市の就園奨励費拡充のために努力します。三、私立幼稚園が行っている子育て支援、預かり保育事業に対する補助金の増額を求めます。これらを幼児教育に必要な予算的的確に措置されることを関係機関に強く求めることを宣言致しました。

第二部の PTA 研修大会では、講師の田澤雄作先生に『いま子どもたちがあぶない』メディアに蝕まれている子ども達、笑いがいいことばの力がない、大人になれない子ども達という、演題でお話して頂きました。講演会には多くの保護者の方々に参加頂きました。

講演の一部を紹介させて頂きます。『メディア』が子どもの成長にどのような影響があるか、私自身考えたことがあります。私自身しかし、赤ちゃん時代から始まる不適切な養育環境、過剰なメデイ

ア漬けは親子のまなざしを奪い、絆や自尊心の源を破壊し、寂しい、自身がいない、笑顔がない、大人になれない問題をつくりだしているようです。その中でも先生のお話で、印象に残っている部分は映像メディア漬けが自尊心の成熟を障害しているということ。家族の会話と自尊心は密接な関係にあること。家の人ほとんど話をしない子は一〇〇%自尊心が低い。何故かを説く鍵は、まなざしと言葉。一家団欒には、お互いの顔(まなざし)を見て、楽しく会話をしながら時間を過ごす、という意味がある。日本の現状ではまなざしや会話の乏しい食卓風景が蔓延している。思い当たる部分がいふ浮かび、テレビをつけたままの食卓、メディア漬けにすることなく一家団欒の意味を再認識しました。他の話からもたくさん学ぶことがあり、講演を聞いた保護者の方もたくさんのことる思い、そして感じたと思います。とても貴重なお話を聞くことができた講演でした。



平成二十八年年度  
気仙沼地区親子行事  
こいのぼりバンドコンサート  
気仙沼カトリック幼稚園 (P)

奥原幹雄



平成二十八年十月八日(土)、気仙沼市立新月中学校体

育館を会場に、気仙沼私立幼稚園連合会親子行事「こいのぼりバンドコンサート」が行われました。

気仙沼市内の五つの私立幼稚園から四十六組約一七〇名の親子が参加し、歌やパネルシアターそしてマジックショーなど、親子で楽しい時間を過ごしました。

「動物村」をテーマにしたパネルシアターでは、耳や鼻、しっぽなどのパーツから何の動物ができるかをクイズ形式で子ども達に聞いかけ、子ども達は色や形から想像して、元気に答えていました。歌にあわせて体を動かしたり、幼稚園の先生方もステージ前で踊ったりして、コンサートを盛り上げて下さいました。

今回の親子行事に出演して下さいました「こいのぼりバンド」さんは、震災後の二〇一二年から毎年支援活動の一環として気仙沼と石巻のカトリック幼稚園へコンサートに来て下さっており、子ども達に大人気の皆さんです。メンバーは、椎名容子さん(よーこママ)、



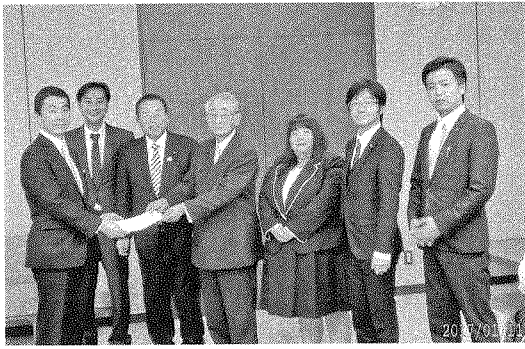
椎名昭彦さん(しーなパパ)、大林さえこさんの三名、とても温かみのある雰囲気を持った方々でした。当日は、あいにくの雨天となり、少し肌寒いくらいの空模様でしたが、会場の体育館は「こいのぼりバンド」さんの素敵な歌声や演奏と、参加した子ども達の笑い声や元気に走り回る姿で熱気にあふれていました。私自身、久しぶりに親子で参加することが出来、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

宮城県知事への陳情

お人形社幼稚園 (T)

副会長 横 澤 行 夫

年明けた一月十一日午後、村井知事に対し、宮私幼の常任理事と共同で要望書を提出いたしました。当日の参加者は、渥美巖会長・横澤副会長・佐々木幸士副会長・安田晴奈副会長・加藤静穂監事・小山佳予子監事・渡辺勝幸常任委員・長・深谷晃祐常任委員・紙谷綾常任委員の九名、それに園児代表として紙谷芽色ちゃん(もみじが丘幼稚園年長児)。宮私幼連合会の村山理事長他六名、合わせて十七名が、出席しました。要望書の内容は、「平成二十九年度私立幼稚園に対する県補助金増額と教職員の人材確保のための施策に対する要望」でした。それに対し村井知



事は、幼児教育の重要性は十分に理解してまず、県財政を見ながら、検討したいと述べました。知事と一緒に記念撮影をし、知事と別れ、次に県議会の中島源陽議長を訪問し同様の要望書を提出しました。中島議長は、宮私幼PTAの副会長という立場でもあり、また役員に県議員が三人も入っている、その方々を中心として議会としても県当局に働きかけたい。と頼もしいお言葉をいただきました。



平成二十八年 宮城県知事表彰

ひかり幼稚園園長

風間文静先生

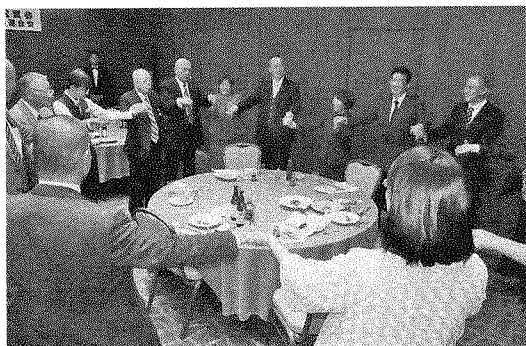
祝賀会

八幡花園幼稚園 (T)

鎌田 俊 昭



り奥様を称えられたご挨拶をいただきました。お人形社幼稚園横澤行夫先生の乾杯の音頭により祝宴が開かれました。和やかな宴はあつという間に時間が経ち、鎌田文恵副理事長の閉会の挨拶、横澤先生の十八番の「今日もおいしくお酒が飲めるのは」を参加者一同輪になって歌いお開きとなりました。



去る十二月八日午後五時三十分より、仙台ガーデンパレスにて風間先生をお祝いする標記の会が開催されました。先生はちゑ子夫人とご一緒に参加者の拍手の中、入場されました。発起人を代表して佐藤宏郎宮私幼副理事長より風間先生の略歴が紹介され、村山十五宮私幼理事長から風間先生の多大なる功績を交えた祝辞をいただきました。花束贈呈後、風間先生よ

お知らせ

平成二十九年度行事予定

平成二十九年度

宮私幼PTA総会

期日 平成二十九年六月一日(木)

会場 仙台市民会館小ホール

宮私幼教育振興大会並びに

PTA研修大会

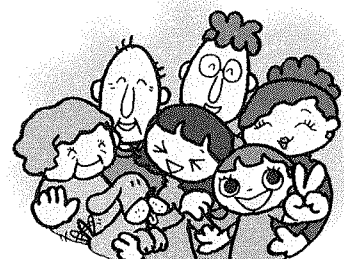
期日 平成二十九年七月十三日(木)

会場 宮城県民会館大ホール

宮私幼PTA親善バレーボール大会

期日 平成二十九年十月十七日(火)

会場 グランディ21(利府町)



### 会員のひろば

#### 出会いに感謝

築館聖マリア幼稚園 (P)

佐藤 友恵



「お前に務まる訳がないだろう」それは自分が一番良く分かってい

る。だけど断りきれなかった。父母会の会長を引き受けたなんて自分でも信じられなかった。プレッシャーからストレス性の喘息を発症したり、吐き気を伴う目眩に襲われたりと、仕事や日常生活に支障をきたすこともあった。「やはり断るべきだった」と後悔した。でもある日、副会長さんの一言で心境が変わった。「楽しんでまん勝ち！」、「どうせやるなら楽しんでや損だよ」明るい笑顔に勇気付けられ「ヨシ、やるぞ！」と前向きになれた。他の幼稚園の役員さん方とも回を重ねるうちに一体感がでてきて会議が楽しくなってきた。皆で力を合わせることで会報誌の発行にも無事こぎ着けていつものメンバーで顔を合わせる最後の日の反省会は、まるで中学の同級会の様に盛り上がった。「ああ、このメンバーで月に一回女子会をやったら楽しいだろうなあ」などと思いつつながら解散を惜しんだ。同じ状況でも心持ち次第で如何様にも変わると教えられた。この出会いと経験を与えて頂いたことに今は心より感謝している。

#### 子どもの成長とともに

たんぼ幼稚園 (P)

森 裕樹



私には二人の子どもがおります。仕事や地域活動が忙し

く子どものPTA活動は今まで妻に任せっきりでしたが、上の子が年長児になり下の子が年少児として入園した今年、突然PTA会長という重責を担うことになりました。初めてのことで何をすればいいのか、皆さんの前で何を話せばいいのかと、入園したての下の子よりも右往左往していたのを覚えております。そんな親をよそに子ども達は、集団生活の中でルールを学び友達とのふれあいを通して優しさを身につけ、運動会や防火パレード、クリスマス発表会で見せてくれるたくましく成長した姿に、心から感動いたしました。そういった子ども達の一生懸命取り組む姿勢に感服し、保護者のみなさんと協力し合いながら一緒に汗を流せた事で、私も親として一つ成長できたのではないかと感じております。子ども達がこの一年笑顔で過ごせたのも、先生方のお力添え、そして役員の皆様のご協力あつてのことと、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

#### 月が温かそうですね

立華こども園 (P)

佐藤 育恵



サンタク ロースの予算を訊いてきた娘がまだ三歳の頃

冬の夜の道すがら「ママ、お月さま」と鼻先を空に向けられた。暗闇に浮かぶ月によく似た真ん丸の瞳で「あつたかそう」と言うからその不可思議さに面食らった。月に温かさを思った娘の感受性が母である私にはない、その事が面白くて嬉しい。子を個としてとらえたそれ以来、月は私の中でも温かい。

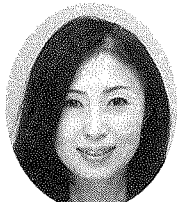
サンタクロースを捕える気満々だった六歳の息子と大掃除の最中、物置から昔々のポータブルCDプレーヤーが現れた。息子はそれを見るなり「お掃除ロボットだ」と言い、小さなボタンを連打した。私は妙な納得と共にその発想に一頻り笑わされた。

親が疲弊する時に限って子どもは我儘を言う。無駄に怒られ、泣き出し泣き止まない。泣きたいのはママだ。もう駄目全て投げ出したい、そんな境地で向き合った子どもが抱き締めてくる。柔らかい体温に甘えた匂いがして、抱き締め返すと泣き止んだ。人の心の機微に敏感な子どもの強かな協力と周りの支えで私の活動は成り立っていた。

#### この一年を振り返って

聖ドミニコ学院幼稚園 (P)

加藤 静穂



年長の息子がもうすぐ卒園を迎えます。家から遠い通園バスの停

留所へ車での送迎、お弁当作り、習い事の付き添い、今年度からは父母の会役員の仕事と、毎日慌ただしく「早くしなさい」「二人で出来ることは自分でやりなさい」が口癖のように怒ってばかり。

父母の会の役員を引き受けてから幼稚園へ出向くことが多くなり、参観や行事の時とは違う普段の子どもの様子垣間見えて、息子に対して自分の寛容のなさに気付かされました。

異年齢混合の縦割りクラスの中、年下の子のお世話をしている子ども達は、小さな子に慕われること人の役に立つことに喜び、笑顔でお世話を奮闘しています。時には我慢をして譲ったり、相手を許したりと、お友達のことを受け止める姿に、受け止めてもらえた安心感を糧に子どもはやさしい心を育み成長していくのだと痛感し、最も近くにいた息子の気持ちに寄り添うことの大切さと難しさに改めて気付きました。自分のことは自分で出来るようになって「早く」「やりなさい」ではなく、子どもの話をよく聞いて、必要な時には甘えも受け止めながら、自分でやり遂げる子どもを信じて笑顔で見守りたいと思います。

### 平成二十八年度 編集委員

- 副会長 横澤 行夫(お人形社T)
- 広報部長 我妻 智香(たんぼT)
- 広報部長 加藤 静穂(聖ドミニコ学院P)
- 広報委員 鎌田 俊昭(八幡花園T)
- 広報委員 鈴木 裕三(ひばりP)
- 広報委員 奥田 幹雄(氣仙沼トリックP)
- 広報委員 川崎 忠紀(氣仙沼トリックP)
- 広報委員 森 裕樹(たんぼP)
- 広報委員 佐々木拓真(三ツルツ生) 常任委員長
- 渡辺 勝幸(六郷 P)

### あとがき

冬の長かった東北にも春の足音が聞かれるようになりました。このおたよりが皆様のお手元に届く頃、子ども達は入学や進級への大きな期待を胸に毎日を過ごしていることでしょうか。

さて、おかげさまで「宮私幼PTAだより八十九号」を発行することができました。ご寄稿いただきました皆様は心より感謝申し上げます。

今年度、初めて宮私幼PTA役員となり戸惑いも多くありましたが、たくさんの方に支えられ、人と人の繋がりのおかげで、心を改めて感じる事ができました。

最後になりましたが、会員の皆様のPTA活動へのご協力に感謝しあとがきとさせていただきます。

(広報部長 我妻智香)